

**新庁舎等整備プロジェクト基本計画策定専門者会議**  
**ホール・ギャラリー機能等検討専門部会 議事要旨**

1 日 時 令和 8 年 7 月 2 2 日（水） 10 時 30 分～12 時 00 分

2 場 所 兵庫県庁第 1 号館 13 階 B 会議室

3 出席者

（1）検討会構成員 ※敬称略

| 氏 名    | 職名等                        | 出欠 |
|--------|----------------------------|----|
| 烏頭尾 寧朗 | 兵庫県美術家同盟代表<br>兵庫県洋画団体協議会代表 | 出席 |
| 小林 純一  | 丹波篠山市立田園交響ホール専門員           | 出席 |
| 豊川 聡   | 神戸新聞社事業局長                  | 出席 |
| 山本 裕之  | 兵庫県音楽活動推進会議代表              | 出席 |

（2）事務局

松井県庁舎整備プロジェクト外室長、津志新庁舎企画課長、仁木新庁舎企画課参事、  
中原芸術文化課長 ほか

4 主な意見

※ 開会あいさつ、メンバー紹介、資料説明等については省略するとともに、発言内容は一部要約しています。

● ホール規模について

- ・ホールの規模や設備は、音楽ホールとして整備するのか、多目的利用を重視するのかによって大きく変わる。音楽ホールを中心に考えるのであれば、常に高い利用需要がある県立芸術文化センターの小ホール(R7 ホール利用率 99.7%)のような施設を目指すべき。  
→音楽ホールとしての使用も含め、様々な用途での使用を検討している。(事務局)
- ・神戸市内には小規模のホールが少なく 400～500 席程度のホールの需要は高い。以前は 1,800 席規模のホールでも埋まっていたが、近年は少子化等の影響もあり中～大規模ホールを埋めるのが難しくなっている。そのため、現在は県立芸術文化センターの小ホール(417 席)に利用希望が集中している。こうした中「モトキタエリア」に小規模ホールが整備されれば、演奏家だけでなく音楽を愛好する県民の方からも、多くの需要が見込まれると考える。  
また、三宮に新たに作られるホールが 800 席規模であることから、それ以下にすることで棲み分けも図ることが出来る。  
→基本構想ではホール面積を 400 m<sup>2</sup>程度としているため、400～500 席規模のホール整備は少し難しいかもしれない。(事務局)
- ・300 席程度の規模でも需要は高いため、整備していただけるのはありがたい。

## ● 音響・ホール機能について

- ・音響は音楽家にとっては生命線ともいえる重要な要素。近隣のホールでは神戸新聞松方ホールが音響に優れており高く評価しているが規模の面では約 700 席でも大きすぎると考える。
- ・旧県民会館にあった「けんみんホール」は、設備や音響面に課題があり、音楽家にとっては使い勝手の良いホールではなかった。新たなホールを整備するのであれば、こうした課題を改善した県民の方から愛される施設となることを期待する。
- ・音響反射板はある方が望ましい。講演会等で声が響きすぎるという懸念については、用途によって反射板を外すことで対応が可能。また、音響機材等でクリアに聞こえるようにすることも可能。
- ・音楽ホールの場合、バックヤードには、控室をいくつかと、ピアノの保管用スペースが必要。ピアノの管理には湿気対策などが求められ、相応の維持管理費が発生する。搬入口については、3 メートル程度があれば十分であると考ええる。
- ・観客用トイレは十分な数を確保する必要がある。トイレの利便性は来場者の満足度に大きく影響し、施設全体の評価を左右する重要な要素。
- ・控室は出演者の利用だけでなく、貸会議室としても使用できる仕様とすることが望ましい。

## ● ホールの客席のあり方について

- ・座席については、多様な用途での利用が想定されることは理解しているが、音楽利用を考えるとのであれば固定席が望ましい。
- ・可動式の座席は雑音の発生や故障リスクがあり、維持管理の負担も大きいのでやめておいた方がよい。固定席であっても、すり鉢状の客席配置とすることで講演会などへの活用は可能であると考え（イメージとしては西神中央ホールに近い）。
- ・座席については、芸術文化センターの小ホールのように、階段状にしてクッションを敷き、中央はフラットにするのがよい。

## ● ギャラリーの規模・構成について

- ・ギャラリーの天井高は重要であり、原田の森ギャラリー本館 1 階の約 3.9m を参考に、最低でも 3.5m 程度の高さが必要であると考ええる。
- ・旧県民会館のギャラリーは面積的にも非常に使い勝手がよかった。原田の森ギャラリーの本館は広すぎる（1 階 600 m<sup>2</sup>、2 階 1,300 m<sup>2</sup>）ため、東館（1 階 230 m<sup>2</sup>、2 階 240 m<sup>2</sup>）の利用が増えている。
- ・床面積だけでなく、展示に活用できる壁面の面積も重要。可動式の壁を作ることが望ましいが、施設によっては業者でないと動かせないこともあるため、利用者自身で動かせるようにすることが望ましい。
- ・一方で、空間も含めて芸術であるため、壁面に対して一定のスペースが必要であり、狭いスペースに可動式の壁を多く設置すればよいというものではない。
- ・可動式の壁面は、高さがきちんとあればそこまで貧相な印象を与えることはないと考え。具体的な例としては、三木市のみつきいホールが参考となる。せんだいメディアテークのギャラリーのように中央に EV があるのも良い。
- ・搬入口は、100 号サイズを搬入できる 1.8 メートル×1.8 メートルほどのスペースが必要。

- ・全国的には、3 室程度の部屋を備え、それらを組み合わせて一体的に利用できる構成が一般的。
- ・他施設の事例では、茨木市の複合施設のおにクルが天井も高く参考になる。

### ● ギャラリーの設備・付帯機能について

- ・控室、作品の保管場所、作品を照らす照明（LED）、台車などが必要。
- ・備品等について、施設によっては使用の都度レンタル料が発生する場合があるが、利用者にとって非常に使い勝手が悪いとため、運用方法について十分に検討いただきたい。
- ・作品をその場で販売するなどの物販スペースに関しては、公立施設において営利目的の活動に対しては通常料金より高めの利用料が設定されており、その場合は他の民間施設を使用することになると考えられるので、必ずしも必要性は感じていない。

### ● ホール・ギャラリーも含めロビーフロア等の一体的な運営について

- ・ギャラリーは展示室だけでなく、プロムナード、ホワイエ、館内の動線空間も活用し、施設全体で作品鑑賞ができる環境が望ましい。
- ・閉鎖的な展示空間ではなく、ギャラリーと音楽ホールが一体になっている作りが望ましい。両施設の利用促進や PR 効果が期待でき、施設全体の賑わい創出につながる。
- ・平日の昼間は特に年配の層を対象に多くの来場が見込まれる（芸文センターのワンコインコンサートはその年齢層の方を中心に非常に盛況）。音楽ホールにおける演奏の待ち時間にギャラリーを鑑賞するなど、ホール利用者とギャラリー利用者が自然に行き来できる動線づくりが望ましい。
- ・Z 世代はインターネットでの作品発表に慣れている一方で、実際に作品を展示することへの喜びや価値も大きい。  
→学生を対象としたポスターや書道コンクールの受賞作品を展示することで、受賞者本人やその家族の喜びや励みにつながると考える。また、プロムナードアートとギャラリーの展覧会を組み合わせることで、さらなる賑わいの創出が期待できる。（事務局）
- ・そこに行けば、1 日楽しく過ごせる、何かがある、そんな場所にできればよいと考える。